

## column

アート・アクティヴィズム94  
イトー・ターリの新作パフォーマンス  
——「自分で額を撫でるとき」

北原恵

リーを走り回ったあと、内ボケットから紙を取り出し、「自分で額を撫でるとき」  
枚ずつ読み上げ、床に落とししていく。半透明の小さなトレーイング・ペーパーに書かれたつぶやきは、ターリの今  
の気持ち【図版1・2】。



(1) 『37兆個が眠りに就くまえにV.O.I. 2 「自分で額を撫でると  
き』』

四月一六日、イトー・ターリさんのパフォーマンスを見に東京へ行つた。コロナ以来、初めての東京。どうしても見たかった。

今回のパフォーマンスは、展覧会「Loop beyond Art: 広がる、人と命の輪」の一環として、恵比寿の工房・親で非公開で開催された。「命の最前線で対峙している病院や看護介護などの施設にアートを展示する」同展には、ターリのほか五名の作家

（田畠裕季子・橋本佐枝子・松下誠子・宮森敬子・佐藤慶子）が出品している。

ターリは電動車椅子でギャラリーを走り回ったあと、内ボケットから紙を取り出し、「自分で額を撫でるとき」  
枚ずつ読み上げ、床に落とししていく。半透明の小さなトレーイング・ペーパーに書かれたつぶやきは、ターリの今  
の気持ち【図版1・2】。

「介護度が高くとも一日平均3時間ぐらいのサービス提供が限度なので、全てが分刻みでセットされる。穏やかな生活を期待することは困難だ／スケジュールありきの生活／「当たり前だろう」と声が聞こえる】

「介護保険制度は「家族」が同居していることを前提に定められている制度だ」

「炎天下、普天間墓地の周りを歩いた」

「姜徳景さんや金順徳さんたる日本軍「慰安婦」の絵画を見た時の衝撃は、そこに真実を見たからだ」

「3・11が巡ってきたが、放

四年ぶりにパフォーマンス再開し、東京都現代美術館やカナダのパンクーバーで公演を行なつた。あれから一年半……。夕方四時、窓から陽射しの降り注ぐ明るいギャラリーで、パフォーマンスは始まった。観客はスタッフも含めて二〇名ほど。

ターリは電動車椅子でギャラリーを走り回ったあと、内ボケットから紙を取り出し、「自分で額を撫でるとき」  
枚ずつ読み上げ、床に落とししていく。半透明の小さなトレーイング・ペーパーに書かれたつぶやきは、ターリの今  
の気持ち【図版1・2】。

射能が飛散した川俣町山木屋を丸2年訪ねていない／目をつむるとその風景が広がる」

「どうやら人工呼吸器を導入するかが、分岐点になるようだ／生と死の分岐点」

「京都の林さんが死を選んだ

図版1 イトー・ターリ 『37兆個が眠りに就くまえにV.O.I. 2 「自分で額を撫でるとき』』パフォーマンス、2021年4月11日・工房・親 撮影・写真は全て筆者

図版2 紙片を読むイトー・ターリ



図版3 床の上で

「お腹に力が入らない」  
ろうか



「沖縄を訪ねる度に宜野湾市にある佐喜眞美術館で『沖縄戦の図』の前に佇む／なぜまた来たのか自問する」「頭は最後まではつきりしているのに／意思の疎通の方法を失つてしまつたら、／どんな世界が待つているのだ

ことをどうしても否定することはできない」

三十枚のトレーシング・ペーパーには、介護を受ける現在の生活、家族を前提にする介護制度、日本軍「慰安婦」、沖縄、福島など、イトー・ターリの日常とこれまで取り組んできた、そしてこれからも取り組み続けたい大切な経験と思想が凝縮されている。パフォーマンスの後半、ターリはスタッフの助けを借りて床に仰向けて寝転んだ。そしてゆっくりと右手を思いっきり上に伸ばす【図版3・4】、緊張に満ちた動きを観客たちは見つめた。さらに上半身を起こしたターリの周囲を、薄く剥がした雲母で囲んでいく。黒くきらめく雲母の点線は、ターリのからだと存在の軌跡だ。

パフォーマンスから1週間後、私はタリにZeroで話をうかがつた。

## (2) 介護保険から重度訪問介護に

ターリ：去年の十二月三日から、重度訪問介護について、夜の介護者が入つて。夜ひとりでいる不安が募ってきて、そこから介護体制が変わつたんですね。十二月二三日以前は、ひとりで寝て、介護保険だ



図版4 マットから移動

けだったし、そうすると非常に限られちゃいますよね。一日に一時間の掃除が週に三回、買物が一回。あとは、バラバラっとした介護のサービスを受けてたんだけど、やっぱり、体調の不安が増えてきて。トイレに一人で行くのが大変になってきたんですね。要介護3の介護保険だけでは、全くひとが来てもらえないでの、ほんとに困っちゃうわけ。朝はヘルパーさんがいた

けど、お昼前にトイレに行きたくてものないとか。午後も、ひとりでがんばって、トイレ行つてたんだけど、それがかなわなくなつて。もう介護保険だけで生活が成り立たない。介護保険の方は、家族がいるついていることが前提なので無理が来て、重度訪問介護に。（水を飲む）

などいうのが、印象だったんだ。  
す。病気とか介護とかが展覧会の全体のテーマになっているけど、読まれた文章のなかでは、それだけでなく、姜徳景さんや沖縄の話とか、これまでターリーさんが取り組んでこられたテーマがきつちりと入っているな。  
と。介護の話を広がりをもつて語っている。

うのは偽りの自分で、剥がした  
ら本当の自分があるのか、とお  
尋ねしたことがあるんですが。  
それからずいぶん発想の仕方が  
変わってきたのでしょうか。  
ターリー…そうでしょうね。いつ  
も仮面をかぶっている。いくつ  
もの仮面をかぶっているとい  
う。

北原…今、そばに誰かおられますか？ ジャア、ストップしましようか、ここで。（間）

かはなくて、表象やどう見るのか、が問題だという表現の方法に繋がっているのでしょうか。ずっと昔、仮面をかぶつてパフォーマンスをされていた時期があつたじゃないですか。あの時私はターリさんに、仮面とい

あつたと思うんですけど。  
だけど、だんだん、順徳さんのこととか、沖縄のこととか見ていく中で、自分のことではないけど、彼女たちの無念さをひとことでないと思うようになりました。

「玉ねぎの皮を剥くように、あなたは自分の殻を破つていきたいのね」って言つたのは、順徳さんでしたからね。

北原…ああ、あのときは私も一緒に韓国に行って、パフォーマンスを見ましたものね。

ターリ…そうそう。今回は雲母。もともと鉛を使つたこともあるし。カナダではそんなの持つてくるなつて叱られたけど。金属とか鉱物とか、惹かれるところがあつて。雲母つて剥がしていける、固いのにね。そこに変化していくことがあるかもしけない。わりとポジティヴな感じで、剥がしていくつていう。

やつぱりALSという病気になつてみると、自分と向き合うことが増えたと思うんですね。あなたどうする気なのか、つて自分で決めなきやならないから。死を選ぶのかどうするのか。雲母は、バラバラになつて、結晶になつて、ほんとに細かく絵具に溶かして使うくらいのも

のになるわけだから。粉とかね。あんまり言いたくないけど、骨とかね、そういうこと繋がる。そこは強調したくないけど。また、そうやって溶けていくようだ。

ターリ…感じていることは、感じたまま伝えたいつて。それは、今までの態度と変わんないですけど。

北原…しんどくないですか？

ターリ…大丈夫。トーン下げたから。

#### (4) ほんつと、時間がなくて。

北原…準備はいつ頃からされたんですか？

ターリ…もう何やつていいかわからなくて、今年に入つてから、二月。本格的には三月の頭ぐらゐからかな。日常が新しいこと

いかなくて。介護のことや医療のことばかりで、パフォーマンスのこと、考えられなかつた。でも、あと、ないじゃないですか、四月一日まで。お尻に火がついて、必死で考えました。やつぱり現実の世界で身を置いて感じていることは、感じたまま伝えたいつて。それは、今までの態度と変わんないですけど。

北原…ほんとは、楽しいことなんだけど。でも、時間がなくて辛かったです。一日に平均五名の人がくるので時間がないんですよ、ほんつとに。でもね、やつぱり、本番でやんなくちやいけないと思うから、三〇枚書こうと思つたし。

北原…すごくきれいでした。パフォーマンスのあと、雲母の上にトレーニング・ペーパーの文章を置いたら、透けて見えて。

ターリ…書く中で考えたことは？

ターリ…今、起きてることを書きたいと。ほんとは、今まで関わつたところに行きたいけど、行けないし。それを自分で留めおかなければ。

ターリ…どうなるか、わかんなつて思つてましたね。会場で咳込んだり。あのね、始まる前に、トイレに行つて。恵比寿の教育関係の施設がそばにあつて、そこでコンセントを借りて、

ね、行けないし。思いだけでも留めてないと。ぜひ入れたかつたの。慰安婦のことと、沖縄と。ずっとテーマにしてやつて来たからね。私の中で忘れたくない終わらせたくないし。

北原…パフォーマンスをやってみて、どんなお気持ちですか？

ターリ…終わつた直後は、またやりたい、って思つた。今でも、まだやろうと思えばやれるんだなつて、思ったのは確か。間があくと、不安になつてくるんですね。カナダから一年半経つて、私出来るのかなつて、不安があつた。

北原…今回、一時間の長いパフォーマンスだつたんですけど、最初からあの長さでやらつたんですか？

ターリ…どうなるか、わかんなつて思つてましたね。会場で咳込んだり。あのね、始まる前に、トイレに行つて。恵比寿の教育関係の施設がそばにあつて、そこでコンセントを借りて、

痰を出したんです。出せたの。  
痰を出すとすつきりするんです

よ。

だから、安心して始められた。痰を取ることに、「サポートしてくれる」大野さんが慣れてきたから。それで、やれたと思う。

やっぱり行きたい時に  
行きたいところに  
ひとりで行きたいな

（図版5　トレーシング・ペーパーに書かれ  
た文章（一部））

だから最後まで読めた。読めないかもしれないと思つてたし。

\* \* \*

「パフォーマンスの後半で床に」寝るけど、どうやって動くかなんて、全く考えてなかつた。手がどのくらい動くかも、あんまりわかんない。

北原…紙を取り出すときも、どれだけからだが動くのかが

見てる人に直接伝わってきてました。動く二本の指であらゆることをされていて。今は、日中の会場で明るくて、狭いギヤラリーを車椅子で走り回っているつていうのが、強烈だったんです。

同じことを都現美でやつてもまた違つただろうし。

ターリー・ハナから映像はやる気がなかつたし。なんか……あ、ちょっとやめよう。

北原…わかりました。ありがとう。じゃあ、ここまでにして。切りましょう。大事にし  
てください。

「わたしの身体の状況は、下肢は全廃、上肢は体から30cm範囲しか伸ばすことができず、キーボードは一本指で打ち、体幹も、腰を左右に移動することができ不出来ないという状況」――。これは、半年前、ラブピースクラブのウェブサイトの連載に書いていた自身の体調である（「わたしの言葉を。Vol.2」（09.13）。

ターリーは重度訪問介護の仕事の経験もある。だが、障害が出始めるとわからないことばかり。「身体障がいのある人と周りの人の集まりin小金井」を作つて、同じ障害者と繋がろうとした。外に出かけたいのに制

度が対応していないことを知る

と、周囲に呼びかけ小金市の議会に陳情した。陳情書はいつも生活をサポートする友人の大野玲が、介護者としての経験を語ってくれた。会話は途中で終わつたが、その後大事がなかつたと聞き、ほつとする。

「わたしの身体の状況は、下肢は全廃、上肢は体から30cm範囲しか伸ばすことができず、キーボードは一本指で打ち、体幹も、腰を左右に移動することができ不出来ないという状況」――。これは、半年前、ラブピースクラブのウェブサイトの連載に書いていた自身の体調である（「わたしの言葉を。Vol.2」（09.13）。

「やっぱり行きたいときに／行きたいところに／ひとりで行きたいな」

【きたはらめぐみ・戦時下の視覚文化と社会について研究中。主な著作に「アート・アクティヴィズム『攪乱分子@境界』（ともにインパクト出版会編著に『アジアの女性身体はいかに描かれたか』（青弓社）など】